

中国 創設 5 周年を迎えた上海協力機構

アジアの出来事

アジア

海外研究員 [松本 はる香](#)

上海協力機構 (SCO: Shanghai Cooperation Organization) は、中国、ロシア、中央アジア 4 力国の正式加盟国 6 力国により、政治、経済、安全保障、文化等の広範な問題について協議を行う 地域協力機構である。SCO の原型は、冷戦後、中国、ロシア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン 5 力国によって、旧ソ連と中国の国境地帯における緊張 緩和と信頼醸成のための交渉の場として形成された。やがて 1996 年に同 5 力国によって「上海ファイブ」が正式に結成され、2001 年にはウズベキスタン を新たに加えて SCO が創設された。2004 年には SCO 事務局が北京に設置された。SCO は地域ブロックでも同盟でもない、域外に広く開かれた地域協力 機構をモットーとしており、近年ではオブザーバーとしてモンゴル、イラン、インド、パキスタン、ゲストとしてアフガニスタンなども参加している。

上海協力機構創設 5 周年を記念して 2006 年 6 月 15 日に上海で開催された第 6 回 SCO 首脳会議では、地域の安全保障問題、経済協力、資源エネルギー分野 等に焦点が当てられ、SCO の協力と連携を謳った共同宣言及び協力文書が採択された。とりわけ中国とロシアのエネルギー資源確保への関心の高さとも相俟つ て、今後 SCO の枠組み内でエネルギー協力を協議すべきであると主張するイランの姿が一際目立った。

今回の SCO 首脳会議において、胡錦濤国家主席は演説を行い、中国が SCO の活動を通じて善隣友好につとめ、平和的発展の道を歩むことを謳い上げた。SCO 創設以来、ロシアとともに主要プレーヤーの役割を果たしてきた中国にとって、SCO の枠組みを通じた協力により、中央アジア地域のイスラム過激派に 対処していくことは重要である。また 9.11 同時多発テロ後、アメリカはアフガニスタンと隣接する中央アジア諸国に対して、関係強化をはかるとともに米軍 を駐留しているが、中国はこれを必ずしもよしとはしていない。2005 年の SCO 共同宣言では、キルギスやウズベキスタンに駐留する米軍の撤退を促す要求 案が盛り込まれ、アメリカとの対立の構図も見え隠れする。

2006 年 8 月